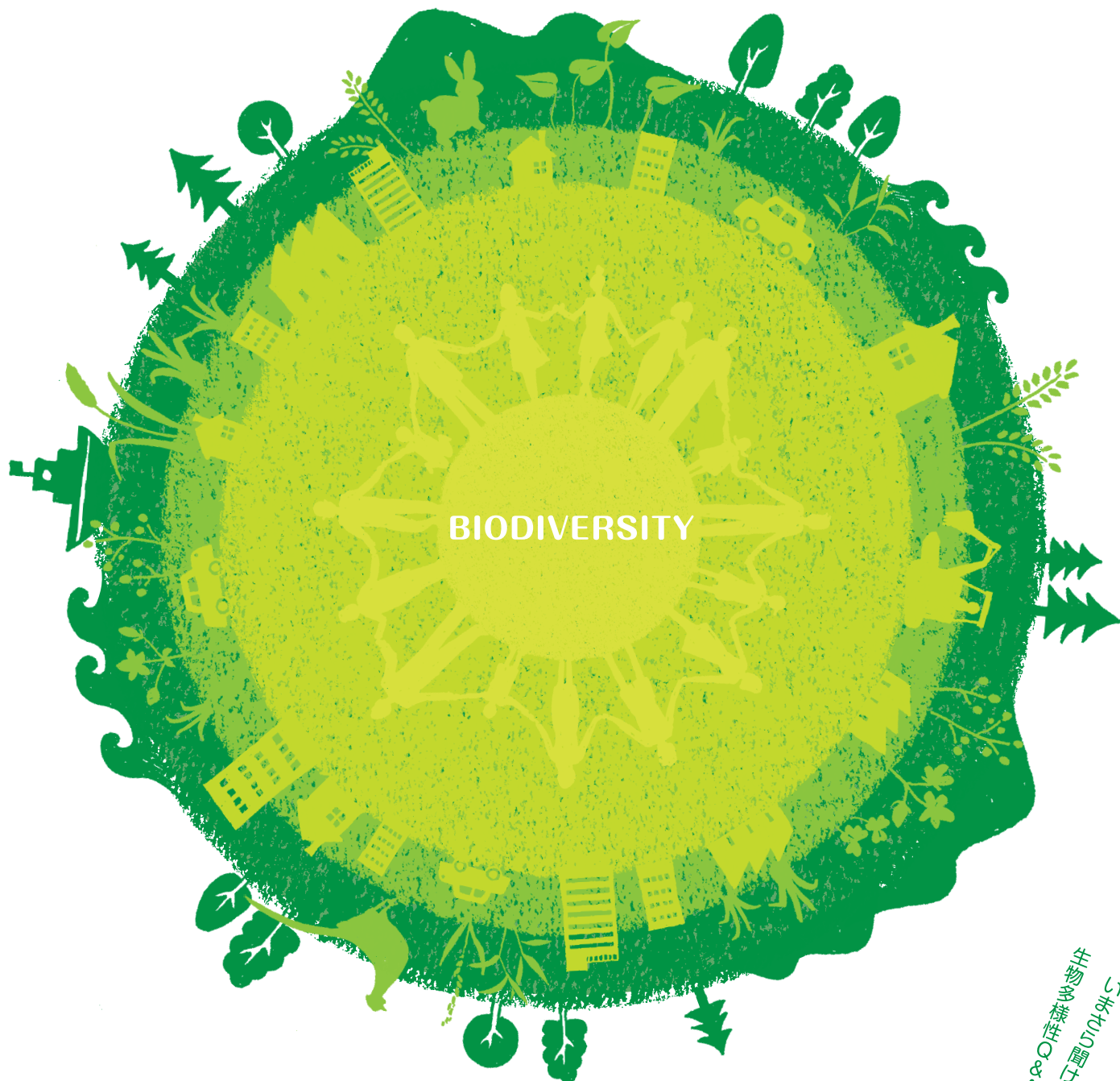




／ 新たな「気づき」を得よう！ ／

生物多様性 ライフサイクル別 事例集

生物多様性
の恵みを受け
ながら暮らす
こと



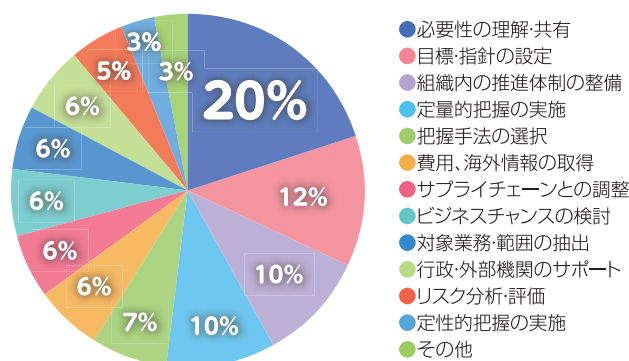
環境パートナーシップ・CLUB(EPOC)
自然共生社会分科会

はじめに 「生物多様性」に困ってませんか？

EPOC自然共生社会分科会では、2011年度にEPOC会員の皆様を対象とした生物多様性に関するアンケート調査を行いました。その結果、生物多様性に取り組んでいる企業も生物多様性に取り組んでいない企業も、「生物多様性と企業活動の関係性が分かりにくい」ため、取り組みが進まない」ということがわかりました。

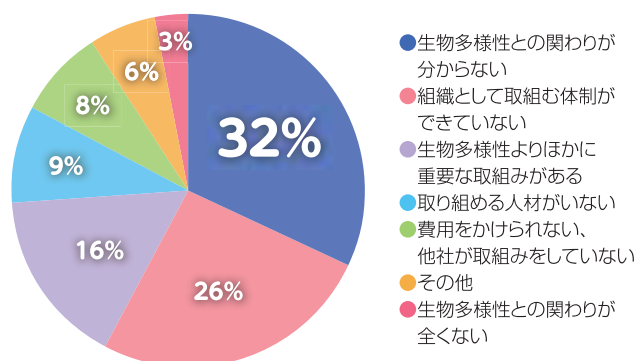
生物多様性に取り組んでいる企業への質問

取り組みを進める上での現状課題となっている点をお聞かせ下さい。(複数回答可)



生物多様性に取り組んでいない企業への質問

取り組みをしない(できない)理由をお聞かせ下さい。(複数回答可)

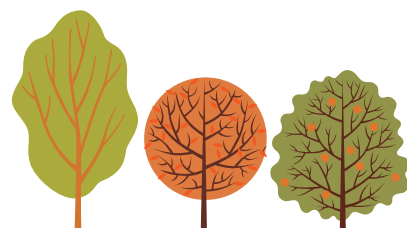


※2011年度EPOC自然共生社会分科会「生物多様性の取り組みに関するアンケート」結果より

このアンケート調査結果を受けて、自然共生社会分科会では、会員の皆様の生物多様性への取り組みを少しでも推進するためにできることはないか検討しました。その結果、会員の皆様が、従来の企業活動と生物多様性とのつながりに新たな「気づき」を得られる事例を集めた、**ライフサイクル別の事例集**を作成することに到りました。

会員の皆様が、生物多様性に取り組むための**ヒント集**として、この事例集をご活用いただければ幸いです。

EPOC自然共生社会分科会



■ はじめに	p1
■ いまさら聞けない!生物多様性Q&A	p2
Q1.「生物多様性」ってなに?	
Q2.なぜ、「生物多様性」は大切?	
Q3.なぜ、今、「生物多様性」なの?	
Q4.企業が取り組むべき「生物多様性」に関する法規制や新たな規制に向けた国際的な動きはあるの?	
Q5.「生物多様性」に配慮しないとどうなるの?	
Q6.企業活動は、具体的にどのような「生物多様性」への活動(配慮)をすればよいの?	
■ ライフサイクル別事例集	p9
■ 発行に寄せて	p36
■ 参考資料	p37

Q1

「生物多様性」ってなに？

A.

地球上には、森、里、川、海などの自然のなかに、それぞれの環境に適応して進化した約3,000万種ともいわれる生き物がいます。それらは、みんなそれぞれ役割を持ち、お互いがつながりあい、支えあって生きています。

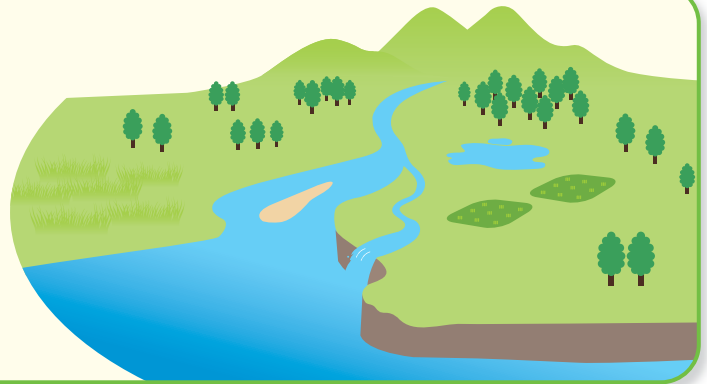
こうした多種多様な生き物が、異なる個性をもち、バランスを保って、つながっていること、それが「生物多様性」なのです。

「生物多様性」の分類

1

生態系の多様性

里山、川、干潟、海などの
さまざまなタイプの自然があります。



2

種の多様性

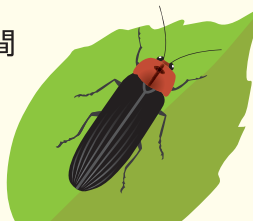
動物、植物、微生物など
さまざまな生き物がいます。



3

遺伝子の多様性

同じ種であっても、個体や個体群の間
で遺伝子レベルで違いがあります。



生息する地域が異なると遺伝子も異なるため、
メダカやホタルの放流には注意が必要です

ゲンジボタルの発光周期の違い

西日本	2秒周期	— — — —
東日本	4秒周期	— □ □ □ — □ □ □
中部地方	2秒・3秒・4秒周期が混在	

ここでは、アンケート調査において生物多様性に取り組んでいると回答された会員企業や会員外の企業から、皆様の参考になりそうな取組みをされている企業の事例を分科会にて選択させていただき、ライフサイクル別にまとめました。

※事例は、自然共生社会分科会に所属する研究会の裁量でとりまとめ、掲載先企業の掲載許可を得たものです。

●事例集の見方

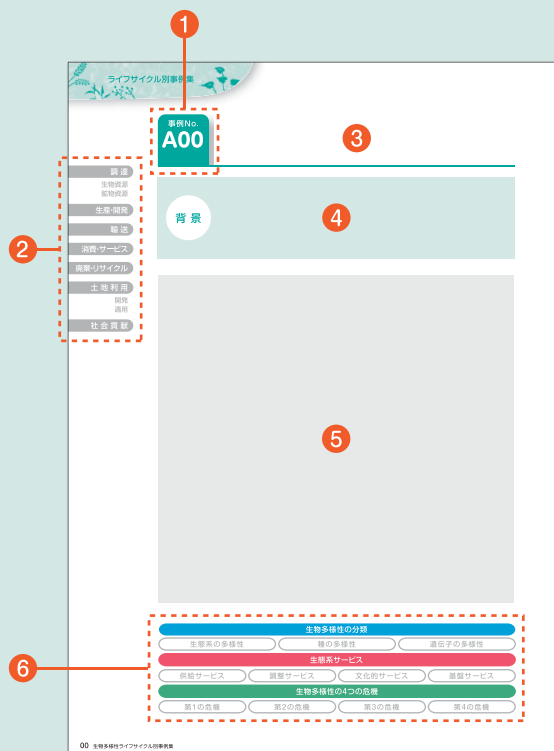
- ① 事例インデックスNo.
- ② 各事例が該当するライフサイクル
- ③ 各企業の事例タイトル
- ④ 各企業が事例に取り組む背景
- ⑤ 各企業の事例の詳細
- ⑥ 各事例の生物多様性に関する分類(p2~p4)

「生物多様性」の分類 →p2

「生態系サービス」の概要 →p3

「生物多様性」の4つの危機 →p4

※上記3項目の該当箇所に関しては、「生物多様性国家戦略2012-2020」に基づき、研究会による判断で、もっとも関わりが深いと考えられるものに該当させています。



●事例インデックス

会社名	A 調達	B 生産・開発	C 輸送	D 消費・サービス	E 廃棄・リサイクル	F 土地利用	G 社会貢献	該当ページ
カゴメ(株)	A01							p10
大日本印刷(株)／(株)DNP中部	A02							p11-12
ユニー(株)	A03							p13-14
大日本印刷(株)／(株)DNP中部		B01						p15-16
パナソニック(株)エコソリューションズ社		B02		B02				p17-18
フルハシEPO(株)		B03						p19-20
三井造船(株)			C01					p21-22
(株)名古屋東急ホテル				D01				p23-24
富士通(株)				D02				p25-26
(株)三井住友銀行				D03				p27-28
アイシン精機(株)					E01			p29-30
東邦ガス(株)					E02			p31-32
コニカミノルタホールディングス(株)					E03			p33-34
(株)加藤建設						F01		p35
KYB(株)						F02		
大成建設(株)						F03		
大日本印刷(株)／(株)DNP中部						F04		
中日本高速道路(株)						F05		
(株)山田組						F06		
(株)竹中工務店							G01	
日本ガラストロニクス(株)							G02	
富士電機(株)							G03	
ブラザー工業(株)							G04	
トヨタ自動車(株)				H01				
(株)ブリヂストン				H02				
三菱電機(株)				H03				

※カゴメ(株)、コニカミノルタホールディングス(株)および日本ガラストロニクス(株)は、非EPOC会員です。

※事例インデックスは、各企業が該当するライフサイクル以外の取組みを行っていないことを示すものではありません。

各ライフサイクルに該当する事例を抽出させていただいたことにご留意ください。

事例No.

A02

(製造業)

大日本印刷株式会社／株式会社DNP中部

「製品の開発」と「印刷・加工用紙の調達」で 生物多様性に貢献

背景

大日本印刷株式会社/株式会社DNP中部では事業活動において生物多様性への配慮を忘れずに活動していくために、大量に使用する印刷用紙に「用紙調達ガイドライン」を設けたり、生物多様性へ配慮した製品の開発に取り組んでいる。

印刷用紙の調達における「用紙調達ガイドライン」について

事業活動を行う上で生態系への依存と影響が大きい「用紙の調達」に関し、持続可能な森林資源の維持を目的として「DNPグループ印刷・加工用紙調達ガイドライン」を制定し、森林認証紙等を積極的に調達することで、本業を通じて生物多様性の保全に取り組んでいる。



【森林認証とは?】

適切な管理がなされた森林と、そこから切り出される木材に証明(認証)を発行し、ラベルをつけることで、消費者に持続可能性に配慮した木材を選んで買う機会を提供する制度である。認証審査は専門の第三者機関が、原則や基準に従って厳正に行う。認証発行後も有効期間中は定期的

に監査が行われ、より健全で持続的な森林管理・木材加工流通システムの改善、向上に向け、継続的に取り組む仕組みになっている。森林認証の種類には、森林に対する認証(FM認証)のほか、認証された森林から生産された木材の加工・流通プロセスに対する認証(CoC認証)がある。

持続可能な生物資源を使用した製品開発について

「バイオマテックPET」は、植物由来の資源であるバイオマスを使用した製品である。

サトウキビ由来のバイオエタノールを使用することで、CO₂排出量を軽減し、石油などの化石燃料の使用を抑制している。こうした取り組みによる包装製品を提供している。

【バイオマテックPETを使用した包装製品】

バイオマス製品であることを証明する認定マークをつけることができる。



生物多様性の分類

生態系の多様性

種の多様性

遺伝子の多様性

生態系サービス

供給サービス

調整サービス

文化的サービス

基盤サービス

生物多様性の4つの危機

第1の危機

第2の危機

第3の危機

第4の危機